

虚構の中の矛盾とその解釈について

西牧宗紀

昔からタイムトラベル等のパラドックスを扱ったSFが好きで、その中の矛盾の解釈を行う方法を知りたかった。虚構を解釈するための理論、枠組みとして様相論理、可能世界論といったものがあることを知り、これらを用いることで多くの曖昧な言葉や虚構に関して考察しやすくなることを知った。この方法を使い虚構作品の中の矛盾の分析している研究があることを知り、先行研究を読んだものの、現在提示されている可能世界論を使った分析においては納得できる解釈や考察がなかったため自分で考察してみようと考えた。

可能世界論で虚構を解釈する際には、可能世界論は現実化していないが可能な世界という概念であり、これを用いることで虚構や様相について分析しやすくなるものの、可能世界の成立要件に無矛盾であるということがあるため、一見、作品自体が矛盾を含む「矛盾を含む虚構」についての解釈は可能世界論を用いた分析では行えないように思える。しかし、実際に可能世界論を用いて「矛盾を含む虚構」についての分析を行なっている研究も存在する。本論文では、こうした研究について妥当な解釈が行なわれているのか、行われていない場合はどのような修正や枠組みの限定をすることで、可能世界を用いた「矛盾を含む虚構」の分析が可能になるかについての考察を行った。

まず、可能世界論と虚構について基本的なことをまとめた。その後、一般的な虚構世界の可能世界論を用いた分析をどのように行うかについて述べ、また虚構世界の中の未確定箇所の推測をどのように行うかについても説明した後、虚構内の矛盾にどのようなものがあるかふれた。その後、三浦俊彦が行った先行研究、具体的な矛盾を含む虚構の可能世界論を使った分析について述べた。

最後に考察においては、三浦俊彦の分析の問題点を指摘した。そしてその解決策として強い矛盾を含むと弱い矛盾しか含まない虚構を分類し、強い矛盾に関してはウォルトンの理論を使い、弱い矛盾に関しては可能世界論を用いた分析を行うという方法を提示した。

(指導教員 横山幹子)